



配点

①	各2点 × 5 = 10点
②~③	各5点 × 18 = 90点
<計> 100点	

[1] 小学校2年生までに学習する漢字から出題している。①「校門」は学校の門のこと。②「通」の「しんにょう」の二画目と三画目をつなげてわつかができてしまわないように注意しよう。③「音楽」の一「樂」の六画目と七画目、八画目と九画目を続けて書かないようにしよう。④「馬車」は馬が引っ張る車のこと。⑤「野鳥」は野生の鳥のこと。「鳥」の線や点の数を正しく書こう。

[2]

1 このあとに、つぶについて説明されているだろうと予測して読んでいこう。「赤血球」「白血球」「血小板」の三つの名前が連続して書かれている。「白血球」についてははつきりと「つぶ」と書かれていながら、文章の流れから白血球もつぶの一種だと判断できるようにしたい。

2 もし「命令」や「指示」なら、「血が出た」ではなく「血を止めろ」などでなければならない。また、「相談を出します」という言い方はおかしいので、ウモチがう。

3 「血が出た」という信号が出されたあとにどうなるかということが続けて書かれているので「すると」がはいる。

4 「これが『かさぶた』になります」と書かれているので、「何が」かさぶたになるのか、と考えて直前を見てみると「赤いかたまり」であることがわかる。

5 「こわれた⑤」となっているので、出血するときに何がこわれたのかをふりかえってみると、「ひふの血管がやぶれて」とあるので、「血管」となる。

6 II 「黄色いしるには、生きていくのに必要な栄養分などがとけています」とあつた。この「黄色いしる」は「血をくわしく調べると、黄色いしるに…」とあつたので、黄色いしるにとけているということは、血の中にとけているということになる。

III 「出血を止めるはたらきがあるのは、とくに小さい、血小板というつぶです」と書かれていた。白血球の役割は「さいきんやウイルスをやっつけ」ることである。

7 【】のあとに「を止める」が大きなヒントである。文章の後半はずつと「出血を止めるしくみ」について説明されていた。

[3]

1 I 「わ、わわわ。この人が、へんくつさんなのね」と心の中で思っているので、へんくつさんことを前から知っていたことがわかる。へんくつさんについても「こわそくなへんくつさん」という表現がされているので、あらかじめ知つていたのなら「こわそくな」人であることも知つていただろう。ちなみに、「偏屈」というのは「素直でない」「ひねくれている」という意味のことばである。

II 最後にへんくつさんから、「それで、どれ？」とたずねられ、「あ、クリーミパンを」と答えている。へんくつさんはパン屋さんだったのである。

2 今、目の前にいる人を見て「この人」と思っている。目の前にいるのは「しかめつらをしたおばあさん」である。

3 「助け船」とは、人が困っているときに貸す力のことである。「助け船を出す」という言い方でよく使われる。

4 「どこに」ひっこしたのかを問うていてことに注意しよう。ひっこし先のことを答えればよい。「どこから」ひっこしてたのかと問われたら、「ゴーゴー谷」が答えになる。

5 「少なく」を「ありません」で打ち消しているのだから、「多い」という意味になる。アホ工の中で「多い」の意味になるのはイだけである。

6 「首をかしげる」という慣用句自体、「疑問に思う」という意味であるから、それを知つていればすぐにわかるが、直前の発言に「どうして、あんな場所に?」があるので、そこからも「疑問」であることは読み取れる。

7 「気のつく」とは、他人の不幸や苦痛などに同情して心を痛めること。お父さんがお医者さんなので、いつしょにひっこして来ることができなかつたことを聞き、イタチのおじさんは「そりやあ、さみしいね」と言つていた。

8 【⑧】の前後の「来てよかつた」「顔色、ちょっとよくなつた」に注目しよう。「お母さんがずっと病氣で。だから、思いきつて、ひっこしてきたの」「西にあるゴーゴー谷に住んでいたんだけどお母さんの体には、あまりよくない場所で……」などと結びつけるとわかる。